

仕様書

半導体・情報インフラ部

1. 件名

NEDO プロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開／
空間 ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座

2. 目的

昨今、物流・情報流増が進む中で、Society5.0の「必要なモノ・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供」「サイバー空間とフィジカル空間の一体化」「システムが流動的に変化し、常に環境が変化」といった特徴も踏まえて、機械（モビリティ等）やシステムが自律制御を行うための、高速処理に適したデジタルインフラの必要性が高まっている。空間情報を扱うデジタルインフラにおいては、〔1〕システム毎の独自の高精度3次元地図の整備・乱立や、〔2〕旧来の「業」「省庁」ごとにインフラが整備され、高コストでデータ利活用が進まないこと、〔3〕差分情報の共有・更新の低減やデータの重ね合わせができない、ことを防ぐために、3次元時空間を統一的な基準で表現するための識別子(以下「空間ID」という。)を整備し、空間IDを通じて利用者が活用しやすい形で3次元地図や3次元空間情報を簡単に取得できる仕組み(以下「3次元空間情報基盤」※という。)を構築することが重要である。

NEDOプロジェクト「産業DXのためのデジタルインフラ整備事業／3次元空間情報基盤に関する研究開発」（以下「コアPJ」という。）において、前述のように「空間ID」を設定し、各IDに地物、気象、人流をはじめとしたさまざまな情報を紐付け、そのデータ連携を行う基盤（3次元空間情報基盤）の構築を行っている。それらを活用した空間のデータ連携により、インフラ管理の高度化・効率化や安全・安心なモビリティの自律運航等が期待できる。

本特別講座では、そのような空間ID・3次元空間情報基盤を実践的に扱う講座を実施し、様々なユースケースの検討等を行い、それらを実践的に活用できる技術者の養成に繋げることを目的とする。

※「3次元空間情報基盤」に時間の概念を追加して、「4次元時空間情報基盤」とすることもある。

3. 内容

(1) 人材育成講座の実施

講義（基礎～応用、コアPJ成果を中心とした最新の技術動向）と実習を通じ、空間ID・3次元空間情報基盤を実践的に扱い、空間ID・3次元空間情報基盤の活用を具体的に検討する段階に進む技術者を育成する。

具体的な内容としては、半期で1セットの講座とし、以下のようなものを含めることを想定している。講師については政府系機関、外部企業・機関等の活用も検討し、講座の実施時期含めNEDOと調整の上で決定すること。

- ・空間IDに関するDADC※のガイドラインの概要
- ・空間IDとデジタルツインの基礎
- ・公共測量と点群データ計測
- ・点群データの利活用
- ・3次元空間情報基盤の概要
- ・空間ID・3次元空間情報基盤の応用（インフラ管理、自律移動モビリティ運航等）
- ・空間ID・3次元空間情報基盤の実践活用

なお、講座の実施にあたっては、受講対象者の講座への参加意欲が向上する仕掛けを組み込むこととし、講座終了後も人材育成を継続的に実施するための仕組みづくりを行うこと。

※DADC：独立行政法人情報処理推進機構デジタルアーキテクチャ・デザインセンター

(2) 人的交流等の展開

人材育成講座の拠点と企業、大学、関係機関等の交流、人的ネットワークの構築を促進するため、シンポジウムやワークショップ等の交流会を開催する。

本交流会は少なくとも2024年度に1回以上実施し、空間ID・3次元空間情報基盤の社会受容性を高めるとともに、2025年度に実施する講座の受講生増加につなげることを目的とする。

4. 事業期間

NEDOが指定する日から2026年3月31日まで

5. 報告書

2024年度末には中間年報を、2025年度終了後には成果報告書を所定の期日までに提出。

提出方法：NEDOプロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の開催

委託期間中または委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上